

巻頭言

すばらしきかな大阪!

一般社団法人 大阪府作業療法士会 会長 長辻 永喜
(藍野大学)



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様には、お健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は一般社団法人化、全国学会と激動の一年でした。第47回日本作業療法学会/大阪大会を終えて早や半年になろうとしています。2013年10月19日(土)に協会本部において、最終の学会事業・決算報告を無事に終了いたしました。名実ともに足かけ4年にわたる大事業の終焉を迎えました。学会長という名誉ある大役を滞りなく果たすことができました。役員各位・運営委員そして学生ボランティアの方々に深く御礼を申し上げます。「てんこ盛り」のプログラム企画に始まり、演題募集・採択・プログラム集の発行、そして当日の運営、常時労苦をおかけした事務全般、本当にありがとうございました。そしてお世話になりました。会期中は5300余名の会員と1200余名の公開講座参加者には学術研鑽だけでなく、気持ちよく・心地よく3日間を過ごしていただけたものと確信しております。それは「おもてなし」の心で皆様を迎えた約650名にわたるスタッフの一致団結した行動の賜物と感謝しております。適材適所、この貴重な体験を通して改めて大阪の人材の豊富さを痛感しました。今後はその人材をもっと前面に出して大阪府士会活動に生かしていただければと思います。

現実に目を向けると、来年度の医療費改訂に向けて様々な動きが見え隠れします。どのような状況になろうとも作業療法士としての役割をしっかりと果たし、対象者に喜ばれるサービスの提供に心がけねばなりません。日々の臨床を全うしなければなりません。そんな中で作業療法士の役割として期待されている分野があります。先

月号にもありました近畿作業療法士連絡協議会で取り組んでいる6つの優先課題の中で、①認知症初期集中支援チームの確立、③災害支援事業の構築(災害時リハビリテーション)、④生活行為向上マネジメントの普及、⑤福祉用具相談支援システムの効率的運用、⑥特別支援学校機能強化モデルの確立です。これらの生活を基盤とした支援は作業療法士が最も得意とする、どの職能よりもイニシアティブをとって働きかけができる分野です。近畿一丸となって作業療法士の技術としての確立が望まれるところです。今後、増加するリハビリテーション職種の中に埋没しないためにもみんなで取り組んで行きたいと考えています。

同時に大阪府士会は一般社団法人となり時代に即した、会員の要望に応じた組織に発展してゆく必要があります。私自身の長年にわたる、大阪府士会活動に関わることでの弊害も危惧されることです。今はなき近畿リハ学院を1977年に卒業して以来、関西支部、近畿作業療法士連絡会、大阪府作業療法士会を経て長きにわたり活動を継続してきましたが、そろそろ区切りをつける時期に来たかと思います。より一層の大阪府士会の発展を期するためにも老兵は一線を退く必要があります。これからは残されたもう一つの役割を果たすべく準備を進めております。もう少し明確になった時点で会員各位のご協力をお願いしたいと考えております。これまでの活動を支えていただいた役員・会員各位に深く感謝申し上げます、今後も府士会活動へのご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。